



# 第11期 株主通信

2017年4月1日から2018年3月31日まで

ダイキョーニシカワ株式会社

証券コード：4246



## ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
さて、当社の第11期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の連結業績につきまして、以下のとおりご報告申し上げます。

2018年6月

代表取締役社長 内田 成明

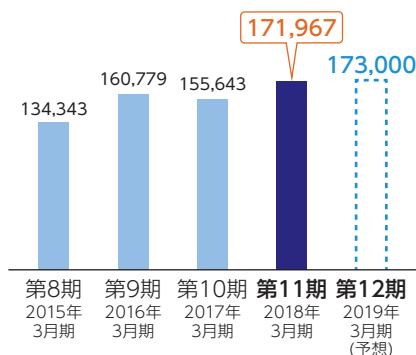
## 当期の業績について

当連結会計年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の連結業績は、主要販売先への売上増等により、売上高は前年同期と比べ16,324百万円(10.5%)増加の171,967百万円となりました。

営業利益は、次世代技術開発に伴う研究開発費の増加等

はありましたが、増収効果やコスト低減活動等により、前年同期と比べ3,675百万円(25.6%)増加の18,052百万円となりました。経常利益は、前年同期と比べ4,876百万円(35.2%)増加の18,742百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期と比べ2,368百万円

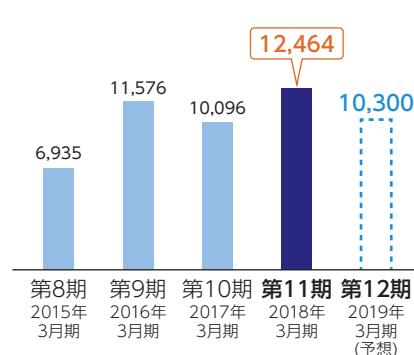
売上高 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



(23.5%)増加の12,464百万円となりました。

## 来期の業績の見通しについて

今後、世界の景気は穏やかな回復の継続を見込みますが、中国での構造改革の推進を背景とした景気減速や、米国の通商政策による関連国との貿易摩擦の懸念等、依然として不透明な状況が続くと予測いたします。

当社グループを取り巻く自動車市場におきましては、日本では販売台数は底堅い推移となるものと見込む中、グローバルでは中国での減税策の終了による縮小も見込まれますが、新興国市場を中心とした需要の高まり等を背景に世界全体では引き続き拡大が期待できるものと見込んでおります。

このような状況の中、当社はお客様の期待を上回る品質

の実現に向けた取り組みと、世界4地域に展開した事業拠点の統括・連携機能の強化を進め、市場開拓、受注拡大に努めるとともに、将来に向けた研究開発・技術開発等ものづくり革新や働き方改革の実現、優秀な人材確保等、企業の継続的発展のための投資を行ってまいります。

なお、来期の業績につきましては、売上高は173,000百万円(前期比0.6%増)を見込んでおります。一方、国内では次世代製品の受注に伴う設備投資の減価償却費、量産準備費用の増加、加えて働き方改革の推進に伴う費用や、海外では中国の金型売上の減少影響、中米・北米の生産減影響を受け、営業利益は14,800百万円(前期比18.0%減)、経常利益は14,700百万円(前期比21.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は10,300百万円(前期比17.4%減)を見込んでおります。



※当連結会計年度より、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を早期適用したため、2017年3月期につきましては遡及適用後の数値を記載しております。

ダイキョーニシカワは、国内の各自動車メーカー向け樹脂部品の分野で、材料ブレンド開発から、製品開発、設計、製造までを手がける総合プラスチックメーカーです。

### 自動車外装・外板部品



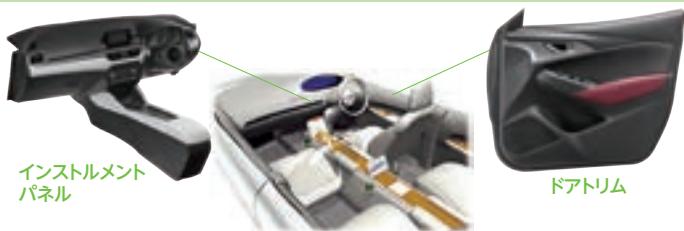
- バンパー
- フェンダー
- フード
- バックドア
- ルーフ
- ルーフラック
- スポイラー
- インタークーラー
- ラジエーターグリル
- リアガーニッシュ
- サイドステップモール
- 等

### 自動車エンジンルーム部品



- オイルストレーナー
- エンジンカバー
- インテークマニホールド
- シュラウドパネル
- シリンダーヘッドカバー
- パワステタンク
- 等

### 自動車内装部品



- インstrumentパネル
- スイッチパネル
- ドアトリム
- コンソールボックス
- インジケータパネル
- トランクサイドトリム
- センターモジュール
- アシストグリップ
- 等
- チェンジノブ
- ピラートリム

### 住宅関連



- バスユニット部材
- 洗面・キッチン部材
- バスタブ
- 人造大理石キッチンカウンター
- カウンター
- ガラス繊維レス人造大理石製品
- ミラーパネル
- トイレタリー部材
- 洗い場
- 便座

## 音も、熱も、光も、風も、質感も… そうだ! プラスチックなら、できる。

### 自動車技術展 「人とくるまのテクノロジー展2018 横浜」出展

当社は、今年も2018年5月23日よりパシフィコ横浜(横浜市西区)で開催された自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2018 横浜」(主催:公益社団法人自動車技術会)に出展しました。

今年、「音も、熱も、光も、風も、質感も…そうだ!プラスチックなら、できる。」をキャッチフレーズに、熱対策や静粛性、快適性、上質感等を樹脂で可能にする技術を紹介しました。

#### ■主な展示製品

- インストルメントパネル・コンセプトモデル
- 樹脂エンジン部品
- スリットルーバー原理モデル
- トランクリッドアウター成形品
- コンシールスイッチ&インジケータ
- 樹脂バックドア(量産品) など



次世代を感じるコックピット構造  
インストルメントパネル・  
コンセプトモデル



本革調の外観とソフトなタッチで  
高級感を演出  
コンシールスイッチ&インジケータ



セルローズナノファイバーに  
発泡技術を組み合わせた  
トランクリッドアウター

当社では、これからも自動車の運動性能や燃費向上に貢献できる多様な樹脂製自動車部品の開発提案を行うとともに、さらに環境にやさしい製品づくりを目指してまいります。

尚、横浜での出展に続き、今年7月11日(水)~13日(金)ポートメッセなごや(名古屋市港区)で開催される「人とくるまのテクノロジー展2018 名古屋」にも初出展いたします。

#### ■自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展2018 横浜

1992年に始まった、自動車業界の技術者・研究者のための国内最大の自動車技術の専門展

会 期：2018年5月23日(水)~25日(金)

出展社数：597社

来場者数：93,458人

当社では、これまで培ってきた高い技術力、多彩な生産設備により、自動車に関わるあらゆる樹脂部品を提供しています。

今回はルーフをご紹介します。

自動車の外板部品

## ルーフ Roof

### ルーフとは？

車の屋根を構成している外板部品です。車種によって鉄だけでなく、アルミや樹脂等様々な材料が使用されており、布製の幌もあります。

当社では、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製やSMC製のルーフを生産しています。



フオーターガーニッシュ



#### SMCとは？

Sheet Molding Compound。熱硬化性樹脂の一種で、不飽和ポリエステル樹脂と炭酸カルシウムなどの充填剤、その他添加物の混合物をガラス繊維に含浸させ増強したシート状形成材料です。

マツダロードスターRFのリアルーフはSMC製で、樹脂の特長でもある形状の自由度を活かし、美しいルーフラインを実現しています。

また、リアルーフのフオーターガーニッシュには、新素材であるバイオエンジニアリングプラスチックが使われています。

### この工場で作っています



#### 【大和工場 概要】

所在地：広島県三原市大和町上草井505

従業員数：385名

主要生産品目：ルーフ、スポイラー

#### 大和工場

大和工場は、広島県三原市の北西部に位置する大和町にあります。

1971年に住宅機器の生産拠点として設立された工場で、熱可塑性樹脂<sup>(※1)</sup>と熱硬化性樹脂<sup>(※2)</sup>という、性質も成形方法も全く異なるタイプの樹脂を両方扱い、多工法多品種の生産を行っていることが特色です。

※1 熱可塑性樹脂・・・バターやチョコレートのように、冷却して一度固まっても、再び熱を加えると柔らかくなる性質の樹脂

※2 熱硬化性樹脂・・・卵やクッキーのように熱を加えて固め、一度固まると再び熱を加えても形を変えることはない性質の樹脂

## バイオエンジニアリングプラスチックとは？

植物由来の原料を用いて作られた、耐熱性や剛性が強化されたプラスチックです。マツダロードスターRFのリアルーフのフオーターガーニッシュには、イソソルバイドを主原料とし、そのほかの原料と重合してカーボネート結合させて作られたバイオポリカーボネートが使用されています。特殊な分子構造をもっているため、従来の石油由来のポリカーボネートに比べ耐傷つき性や耐衝撃性、耐光性に優れるとともに、透明性が高いため、さまざまな色に着色することができるという特長があります。

## マツダCX-5のフロントグリル部分にもバイオエンジニアリングプラスチックを採用

バイオエンジニアリングプラスチック(以下、バイオエンプラ)は、植物由来の原料を使用しているため、石油資源の保護やCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献することができますが、従来の石油系プラスチックとは材料の製造方法が異なるためコストが高く、自動車部品への適用があまり進んでいませんでした。

しかし、高い技術が要求される「ピアノブラック」と呼ばれる漆のようなツヤのある深い色合いの黒色を、バイオエンプラならば塗装なしで実現でき、コストをおさえることに成功しました。また、研究を重ねた結果、大型外装部品にも対応が可能となり、2018年3月に発売になった、商品改良されたCX-5のフロントグリル部分にもバイオエンプラが採用されました。

今後も、開発部門の一翼を担う部品メーカーの一員として、当社の持てる生産技術のノウハウを活かし、環境にも貢献できる製品づくりを目指してまいります。



## ダイキョーニシカワ 開発担当者に聞く

**Q** 樹脂性ルーフの良い点は、どんな点ですか？

**A** 例えば、樹脂性ならではの美しいシルエットが実現可能です。樹脂には形状の自由度が高いという特長があり、複雑な形状にも対応できる上に、部品点数も削減でき、軽量化にも貢献できます。

**Q** バイオエンプラをフロントグリルに使用するにあたり、どんな点に苦労しましたか？

**A** フロントグリルの形状は非常に複雑なので樹脂が流れにくく、成形が難しい部品です。加えてバイオエンプラはPPやABSといった汎用プラスチックに比べ流動性が低いため、いかにして安定した品質で効率的な生産を行えるようにするかという点に苦労しました。

**Q** 今後バイオエンプラを使用した部品は増えますか？

**A** バイオエンプラは植物由来の原料を使用しており環境に優しい材料ですが、コストの制約があるため、今は一部の車種や上級グレードの車にしか採用されていません。課題はまだありますが、様々な部品への展開の可能性を探り、研究開発を重ねてまいります。

## 新本社及び本社工場建設のお知らせ

～本社・研究開発機能の集約と最新鋭の工場を併設し、効率的な事業運営を目指します～



当社は、広島県東広島市の東広島寺家(じけ)産業団地に新本社及び本社工場を建設いたします。

この新拠点建設を通じ、本社・研究開発機能を集約し、また最新鋭の生産工場を併設することでより効率的な事業運営を進め、将来に向けたものづくり革新を実現する生産基盤を確立します。また、社員が一層働きやすい職場環境を整備するとともに、太陽光発電導入やエネルギー効率の高い設備導入などによるCO<sub>2</sub>排出量の削減等を通じ、環境保全活動に貢献してまいります。

新拠点建設に伴う投資額は、約125億円を予定しています。2018年4月に着工し、2019年度上期に工場棟完成後、生産設備を搬入開始、順次生産を開始するとともに、2019年度下期に本社棟完成の予定です。

### 新拠点の概要

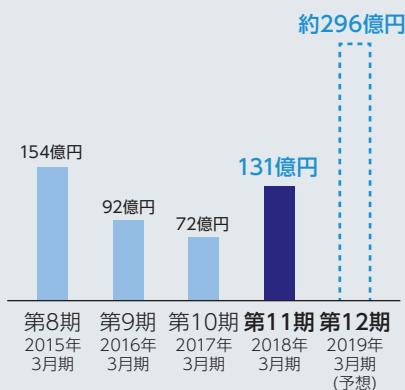
建設予定地	東広島寺家産業団地
敷地面積	6万3,000平方メートル
本社棟 (延べ床面積/ 階層)	1万1,921平方メートル/ 地上4階建て
工場棟 (延べ床面積/ 階層)	3万3,909平方メートル/ 地上2階建て
本社棟完成予定	2019年度下期
工場棟完成予定	2019年度上期
投資額	約125億円 (土地購入費用含む)

※面積は、工事実施設計図面による概算面積です。

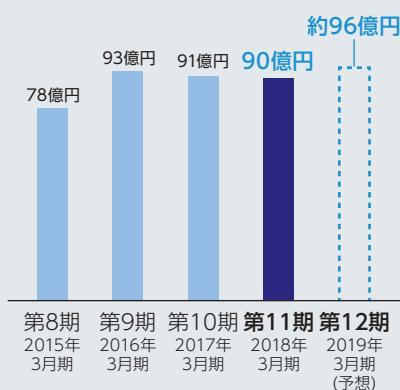
## 設備投資・減価償却費・研究開発費の状況

## 新拠点設立と次世代技術開発に向けた積極的な投資計画

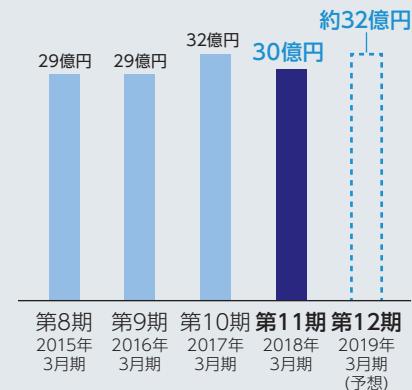
## 設備投資



## 減価償却費



## 研究開発費



2018年3月期の設備投資は、新本社及び新工場建設用地の購入費用を含み、2017年3月期に比べ約59億円増加し、約131億円となりました。2019年3月期は、次世代車種量産にかかる新規設備投資に加え、新本社及び新工場関連の費用等、将来に向けた積極的な投資を計画しており、約296億円を見込んでおります。

減価償却費は、2018年3月期は2017年3月期に比べ約1億円減少し、約90億円となりました。2019年3月期は約96億円を見込んでおります。

研究開発費につきましては、2018年3月期は2017年3月期に比べ約2億円減少し、約30億円となりました。2019年3月期は約32億円を見込んでおります。次世代技術開発、すなわち機能部品の樹脂化・軽量化や、樹脂成形技術と電装技術の融合によるデザイン性や安全性の向上、内装部品の質感向上など、環境にやさしく高付加価値な軽量樹脂製品へのニーズに応えるべく、一層注力してまいります。

連結貸借対照表(要約)

(百万円)

科目	第10期 2017年3月31日現在	第11期 2018年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	71,740	84,495
<b>1 固定資産</b>	<b>48,640</b>	<b>54,740</b>
有形固定資産	42,981	48,903
無形固定資産	1,033	1,163
投資その他の資産	4,624	4,673
資産合計	120,381	139,235
<b>負債の部</b>		
流動負債	52,266	60,621
<b>2 固定負債</b>	<b>11,584</b>	<b>8,894</b>
負債合計	63,851	69,515
<b>純資産の部</b>		
株主資本	54,067	64,267
資本金	5,426	5,426
資本剰余金	10,836	10,835
利益剰余金	42,230	52,428
自己株式	△ 4,426	△ 4,423
その他の包括利益累計額	1,017	3,091
その他有価証券評価差額金	336	241
為替換算調整勘定	725	2,866
退職給付に係る調整累計額	△ 43	△ 16
新株予約権	16	41
非支配株主持分	1,428	2,319
純資産合計	56,530	69,719
負債純資産合計	120,381	139,235

**1 固定資産**

有形固定資産の増加などにより、前期に比べ6,099百万円(12.5%)増加し、54,740百万円となりました。

**2 固定負債**

長期借入金の減少などにより、前期に比べ2,690百万円(23.2%)減少し、8,894百万円となりました。

連結損益計算書(要約)

(百万円)

科目	第10期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第11期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
<b>3 売上高</b>	<b>155,643</b>	<b>171,967</b>
売上原価	133,404	145,691
売上総利益	22,238	26,276
販売費及び一般管理費	7,861	8,224
営業利益	14,376	18,052
営業外収益	594	1,075
営業外費用	1,105	385
経常利益	13,865	18,742
特別利益	3	14
特別損失	96	238
税金等調整前当期純利益	13,772	18,518
法人税等合計	3,687	5,346
当期純利益	10,084	13,171
非支配株主に帰属する当期純損益	△ 11	706
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>10,096</b>	<b>12,464</b>

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(百万円)

科目	第10期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第11期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
<b>4 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>17,628</b>	<b>24,742</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,267	△ 13,547
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,196	△ 6,443
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 674	158
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,509	4,909
現金及び現金同等物の期首残高	37,174	33,664
現金及び現金同等物の期末残高	33,664	38,574

**3 売上高**

主要販売先への売上増等により、売上高は前期に比べ16,324百万円(10.5%)増加の171,967百万円となりました。

**4 営業活動によるキャッシュ・フロー**

24,742百万円の収入(前期は17,628百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益18,518百万円及び減価償却費9,078百万円の計上によるものです。

会社概要 (2018年3月31日現在)

社名	ダイキョーニシカワ株式会社
本社	広島県安芸郡坂町北新地一丁目4番31号
設立	2007年4月1日
資本金	54億2,665万3,900円
従業員数	5,072名 (連結)

会社役員 (2018年6月22日現在)

代表取締役社長	内田成明
代表取締役副社長	野口悟
取締役専務執行役員	竹岡健次
取締役専務執行役員	桧山俊夫
取締役専務執行役員	錦村元治
取締役専務執行役員	和木深水
社外取締役	出原正博
社外取締役	圓山雅俊
社外取締役	佐々木茂喜
常勤監査役	繁元則彦
社外監査役	安村和幸
社外監査役	廣田亨

グローバル事業拠点

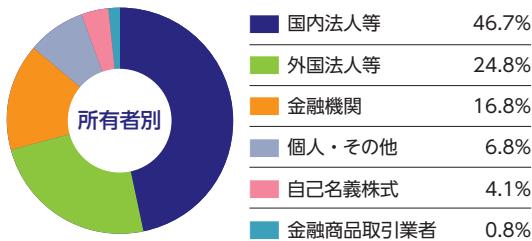


※上記の他に、連結子会社2社、持分法適用関連会社2社があります。

## 株式の状況

発行可能株式総数	236,704,000株
発行済株式の総数	73,896,400株
単元株式数	100株
株主数	3,428名

## 株式分布状況



## 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
西川ゴム工業株式会社	11,835,200	16.7
株式会社イノアックコーポレーション	3,924,600	5.5
三菱商事プラスチック株式会社	3,924,600	5.5
住友商事株式会社	3,573,680	5.0
株式会社広島銀行	3,541,800	5.0
マツダ株式会社	3,541,800	5.0
三井物産株式会社	3,222,720	4.5
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	3,177,000	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,257,000	1.8
ダイキョーニシカワ社員持株会	1,128,433	1.6

\* 当社は、自己株式3,048,638株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (平日9:00~17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
公告掲載方法	電子公告 <a href="http://www.daikyonishikawa.co.jp/">http://www.daikyonishikawa.co.jp/</a> 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## 会社紹介ビデオ全面リニューアルのお知らせ

このたび当社は、会社紹介ビデオを全面リニューアルいたしました。当社のホームページでも視聴いただけますので、ぜひご覧ください。



<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>



ダイキョーニシカワ株式会社

TEL:082-885-9979

